



みんなで作った俳句。それぞれ良いと思う俳句3つに丸印をつけました。

今年度支援対象の学校一覧

学校名	テーマ
北園小学校	国際化に対応する学校 日本一を目指して
西小学校	言葉を大切にする学校 日本一を目指す
下切田小学校	出会い、ふれ合い「自分に気づき将来をつくる」体験活動 日本一の学校を目指して
上切田小学校	ふるさと大好き日本一を目指して
高清水小学校	俳句日本一を目指して ～四季を感じて五・七・五～
深持小学校	日本一本好きな子どもがあふれる学校を目指して
ちとせ小学校	心に響くいい声日本一
四和小・中学校	こころの輝き日本一を目指して
十和田中学校	日本一健康で前向きな生徒の育成を目指して
大深内中学校	地域に貢献する学校日本一を目指して～駒踊りとボランティアを通して～
甲東中学校	表現力の豊かな学校日本一
第一中学校	奉仕の心(志)日本一を目指して

※他の市立小中学校には来年度から支援を開始します。各校とも従来に増して、より力を入れた取り組みを展開します。

各学校の取り組みは、市ホームページで紹介しています。 図指導課 ☎ 2309



特色ある教育活動を通して、十和田市の子どもたちが社会に出たときに自分の学校に誇りを持ち、自信を持って生きていけるよう、支援していきたいと考えています。日本一を目指す気構えで、子どもたちが頑張る姿を期待しています。

十和田市教育委員会 米田 省三 教育長

日本一を目指した 特色ある教育活動の推進

頑張る子どもたちに声援を!

子どもたちは未来を託す輝かしい存在です。しかし、少子化はやまず、現在市内の小学生は第2次ベビーブーム世代である30年前の約半数となり、学校ごとの児童数も減少しています。今、市の児童生徒の持てる力を存分に伸ばそうと、市内各市立小中学校では日本一を掛け声に、特色ある教育活動に取り組んでいます。



あったかハート隊の活動
学年問わず希望した児童によって結成された隊。全児童の約半数が隊員です。

いて全校による俳句学習会が開かれた高清水小学校(内山祐子校長)。学習会の締めくくりは、みんなで作った俳句の鑑賞と選定です。一等を意味する天の句に選ばれたのは、太陽よりも高くから照らすかのようなひまわりを詠んだ4年生の井上莉緒さんの句でした。

世界で一番短い詩である俳句。無駄を省いて感動や共鳴を呼び起こし、高い芸術性が世界でも愛されています。誰もが思いつくようなありきたりの言葉ではなく、自分の中から生まれてきた言葉が大切だと言います。

同小学校では、豊かな心と道徳心を育む教育に力を入れています。

きな可能性があります。日本一を目指して頑張りました。と激励しました。

内山校長は「過去にもコンクールで入賞し、児童の励みや自信になりました。今後は、専門家による学習会のほか、地域参観日などで俳句を通じた交流なども計画しています」と話します。

今回の講師である七戸高校の宮内香宝先生は児童に向けて「今日は意外性がある良い俳句がたくさん生まれました。七戸高校文芸部の生徒は全国で高い賞を得て、表彰式に出席し、本やお茶のラベルで紹介されるなど貴重な経験をしています。皆さんにも大

特色ある教育活動の 取り組みへ支援

どこの学校も子どもたちの成長のため、持てる力を注いでいます。市では今年度から、創意工夫による日本一を目指した特色ある教育活動を展開するための経費の支援を、各学校へ3年間行い、より学校に根差した活動になるよう後押しします。全部の市立小中学校で実施しますが、今年度は先行して25校中12校に支援を開始します。

心に響くいい声 日本一

「おはようございます」「おはようございます」

ちとせ小学校(高木守雄校長)の玄関で、幾重にもこだまする朝のあいさつ。その日自発的に集まった「あったかハート隊」が登校児童を迎えます。生徒たちが意識するのは、相手が元気になるようなあいさつをすること。指導する須郷英明先生は「自分に自信がなくては声が出ません。あいさつによって周りが見えるようになります」と相乗する効果を見据えています。

ちとせ小学校は「学び合い」と「表現力」に注いだ教育活動に取り組んでいます。大きな柱である基礎学力の向上に向け、表現力の育成から子どもたちの力を引き出す狙いです。日頃のあいさつから言葉遣い、また暗唱や歌など、声を出す活動に工夫を凝らします。

高木校長は「心に響くいい声で、相手が喜び、自分も嬉しくなります。児童たちが信頼関係を築き、認め合い、教室での積極的な学習にも結び付くと考えています」と話し、

ちとせっ子集会
環境美化委員会が表現力を発揮して、掃除道具の使い方をいい声で分かりやすく発表しました。



「ひまわりが空高くから てるす朝」

7月3日、外部の講師を招き、

四季を感じて
五・七・五

高清水小学校

「いい声日本一だよ、と児童たちに声掛けして奮起させています。「日本一」は良いキーワードになっていきます」と、今後の指導に意気込みます。

これを機にしっかりと取り組んで、3年後には本場の日本一になるように。児童を見守る先生方からそんな声がかれました。